

盲ろう者に対する支援 ～盲ろう者宿泊型生活訓練等モデル事業に伴走する研究～

盲ろうとは、視覚と聴覚の重複障害です。厚生労働省が、国リハ、全国盲ろう者協会の協力を得て平成 22 年度と 23 年度に行った盲ろう者宿泊型生活訓練等モデル事業では、合計 8 名の盲ろう者に 1 年間の生活訓練が実施されました。

モデル事業では、訓練時間にも訓練時間外にも 8 時半から 21 時まで、休日も含めて、盲ろう利用者に 1 対 1 に通訳・介助員が配置されました。その結果、ほとんどすべての盲ろう者が、より多くの情報を求めるようになり、通訳・介助員に希望を正確に伝えられるようになりました。一方、他の盲ろう者およびその通訳・介助員、他の障害者、支援員と共同して活動するための課題が発見され、ガイドラインを作成しました。

過去に国リハで生活訓練を受けた盲ろう者の記録からは、訓練時間の延長、訓練後に談話室に支援員が同行するなど、個別の配慮が行われていることがわかりました。

研究代表者：障害福祉研究部 北村弥生
kitamura-yayoi@rehab.go.jp